

シークエンスを考慮した歩行空間の景観分析

岐阜大学大学院 学生員 ○服部 務

岐阜大学 正会員 秋山 孝正

1. はじめに

街路の歩行空間である歩道は、都市景観の形成にも重要な役割をもつ。本研究では、街路景観のなかでも、特に歩行空間に着目し分析を行う。具体的には、岐阜市の幹線街路網より3路線を設定し、車道幅員、土地利用などより分類される代表的な歩道区間を抽出する。歩行者からみた連続的に変化する景観を記録するため、ビデオカメラによる撮影を行った。つぎに景観に対するイメージを把握するためアンケート調査を行う。このとき、景観設計上の視点からシークエンス景観を構成する要素と、想起されるイメージとの相互関連性について分析を行う。

最終的に、これらの分析結果に基づき、歩行者に対する快適な歩行空間の創出の方向性と各対象地域での歩行空間の特徴について整理する。

2. 歩道の設計

歩道の利用は主に移動を目的とするため、シークエンス景観について考慮する必要がある。ここでは、シークエンス景観を考慮に入れた歩道景観について、評価要因と、景観要素の関係を関連研究を参考にまとめる^{1),2)}。まず、表-1に歩道の景観要素とその留意点を整理した。歩道には、本表に示される要素以外にも多くの要素が存在し、景観に影響を与える。また、評価要因についても、これらが完全に独立したものではなく、互いに影響し合っている。

したがって個々の要素のデザインは質を高め、景観の調和を考える必要がある。不必要に突出した要素のデザインは、全体の景観を壊しかねない。また、シークエンス景観の特徴である景観の変化は、歩行者の心理に影響し、アメニティ性を生み、街路の個性を派生させることである。

3. イメージ調査の概要

本研究では、動的要素を捉えることができるビデオ

表-1 シークエンス景観を考慮した歩道の設計

評価要因	景観要素	留意点
ストーリー性	線形	自然などの景観要素を取り込む。要素の見え方が変化する。
	幅員	人の行動に変化を与える。 人の行動に余裕の広さを取る。
	施設	駅など、多くの人が集まる所は、シークエンス景観の終点となりやすい。
アメニティ・デザイン	統一	舗装 カタ・舗装などにより地域の差別化が行える。 素材の質感やデザインに大きく影響する。
		看板・案内板・標識 商業ラインの規制 案内板・標識なども乱立するのを避け、整理、集約させる。
		ファザード 建築の様式、デザインを統一することが好ましい。
		アーケード 圧迫感を持たせないようにする。
		植栽 一般に、有るほうが良いとされる。 地域の特色、季節感の演出
	リズム	防犯柵 基本的に、歩行者にとって好ましいものではない。
		ファザード 高さを統一し連続感を持たせる。
		電柱 一般的に、景観上好ましくないとされる。 防犯上も検討することが好ましい。
		街灯 全体の調和を崩さず、質の高いデザインにする。
		植栽 植栽を誘導し、ピストとなる。
機能	対比	設計者のデザイン力が必要とする。対比がうまく行われた景観は魅力的なものとなる。
	快適性	歩行空間 道路上の機能や情報整理、集約させる。歩きやすさを考える。
		交差点者に対する整備 バリアフリー、点字ブロック版の色・形状と配置に注意を要す。
		憩いの場 オープンスペースを設けたり、ベンチなどをおく場合も、そのデザインや配置に気を配る。

カメラを用いて、歩道景観を記録する。

これらを資料とし、アンケート調査によりイメージの把握を行った。ここで、シークエンス景観の全体評価と、移動に伴い変化する心理量を把握するための2種類の調査を行う。対象路線を、岐阜市の幹線街路網より長良橋通り、金華橋通り、忠節橋通りの3路線とした。さらに、対象区間として、車道幅員、土地利用などより分類される代表的な歩道区間を抽出する。今回、調査対象とした6区間を図-1に示す。

3. 1 調査対象地域

具体的な調査対象区間について、歩道設計上の意味を説明する。

区間1：忠節橋北部

長良川の堤防を横断するため、上り坂となる。坂

道を上ると、開放的な景観となる。幅員は電柱や防護策があり狭い。沿道には商業施設が並ぶ。

区間2：メモリアルセンター横

街路樹が整備され、カラー舗装もされ区間の統一がされている。歩道橋があり景観に変化を与えている。防護策も茶色の地味なものとなっている。

区間3：金華橋通り岐阜駅周辺

繊維問屋が立ち並ぶ。駅から近く自転車の駐輪が多い。アーケードが作られ圧迫感がある。ファザードは、同業種の店舗が並ぶため、統一である。

区間4：長良橋南部

街路の線形は緩やかにカーブし、下り坂となり景観に変化を与える。岐阜城からも近く、橋上流では鵜飼いが行われ観光客も多い。橋詰めにはポケットパークが作られており、環境への配慮がうかがえる。

区間5：妙照寺

この辺りは戦災をまのがれた古くからの建物が多い。妙照時は芭蕉ゆかりの地として、文化的意味でも重要である。環境整備はあまりすすんでいない。

区間6：長良橋通り岐阜駅周辺

商業施設が建ち並ぶアーケードとなっている。アーケードは天井が高く取られ圧迫感は余り感じない。電柱も除去されている。各所にオブジェが配置され景観に変化を与えている。

3. 2 イメージ調査の概要

つぎにイメージ調査の内容についてのべる。ここでのビデオの画面は、歩行者からの視点を想定している。この撮影は平成9年10月20日、11月18日、19日の13:30~16:00に行った。

また、歩行速度は、現地での走行条件により様ではない。そのため、各区間長は通過時間により定める。以上のビデオを用いたイメージ調査はつぎの項目について行う。

- ビデオにより撮影された景観を提示し、シークエンス景観を全体的に評価してもらう。
- 移動に伴う変化を考えるため、ビデオ化された景観を30秒間隔に分割する。分割された区間の景観を提示し、心理量を計測する。

調査は、被験者を一室に集め、ビデオ化された疑似景観をモニターにより提示し、回答してもらう。分割された景観については時系列の順に行う。回答

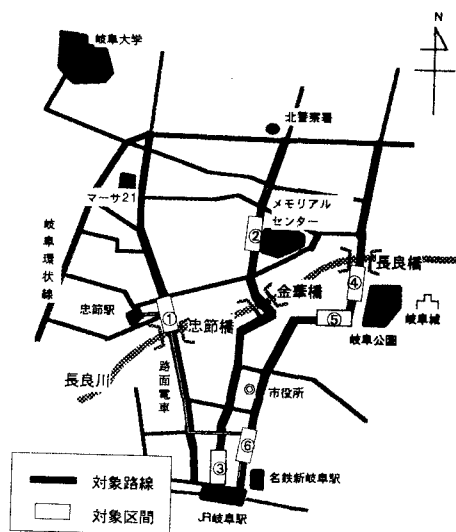


図-1 対象地域図

は景観の提示後に行ってもらう。

3. 3 分析方法

景観設計における環境の変化が一般の人々にどういったイメージを与えるのかを考える。景観を構成する要素を計測し、アンケート調査で求められた区間における心理量を推定する。

また、シークエンス景観についても、区間での心理量を時系列的にとらえ、移動に伴い変化するイメージを説明する。さらには、どのようなイメージの変化が街路にアメニティを創出するのか考える。

4. おわりに

本研究では、まず歩道景観の設計について整理した。また、実際の歩道景観について考えるため、歩行者のシークエンス景観をビデオを用いて撮影した。

今後の課題として、(1)イメージの時系列的变化の指標化。(2)シークエンス景観について好ましい景観変化の検討などが挙げられる。

一参考文献一

- 1) 公共空間のデザイン—シビックデザインの試み—, 建設省中部地方建設局シビックデザイン検討委員会, 大政出版社, 1994.
- 2) 樋口忠彦: シークエンス景観, 土木工学大系 13 景観論, 彰国社, pp. 127-176, 1977